

パートナーシップ情報

Partnership
Information

発行日 2007年4月
発行 企業・NPOパートナーシップ委員会（事務局：高知県ボランティア・NPOセンター）
〒780-8567 高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ4F
社会福祉法人高知県社会福祉協議会／高知県ボランティア・NPOセンター内
TEL 088-850-9100 FAX 088-844-3852 Eメール kvnc@pippikochi.or.jp

◆ 企業・NPOパートナーシップ委員会では、企業の社会貢献活動の支援や企業とNPOのパートナーシップをすすめるための議論を行い、さまざまな事業を実施しています。 ◆

企業市民セミナーの発表事例の紹介



企業担当者とNPOとの情報交換

企業・NPOパートナーシップ委員会は、2006年10月19日(木)に高知銀行、2007年2月21日(水)に四国銀行において、「企業市民セミナー」を2回にわたり開催しました。2006年度のテーマは、昨年度に引き続き、「企業と社会のつながり方 ～ビジネスと社会貢献～」とし、社会貢献が企業の本業、さらには、地域の課題解決にどうつながり、関わっていくのか、高知の企業の取組みの紹介を通じて参加者と一緒に考え、探りました。

以下、セミナーで発表いただいた企業の取組みを紙面で紹介します。

○「第17回企業市民セミナー」

2006年10月19日(木) 13:30~16:30

(株)高知銀行 本店6F会議室

「本業を活かしてリサイクル事業に挑戦」

山中誌朗さん (株)山中運送代表取締役社長

窯業製品原料の運送事業を営む山中運送。自社主導で収益を上げることでできる新たな事業展開を模索するなか、運送会社が持つ“運ぶ”という資産を活用し、事業所から排出される缶、ビン、ペットボトルなどの容器包装類を回収したうえで、プレス保管するリサイクル事業を2001年6月からスタートしています。この事業は、短時間労働が可能である作業が中心であることから、定年退職者の再雇用先として、また、障害を抱える人の就労先にもなります。さらに、公道を使用しながら、排気ガスや騒音の発生など環境に負荷をかけている事業者として少しでも環境を良くする責任を果たしたいという思いもあります。今後は、同業者と連携して、回収に協力いただけるパートナー事業者を増やししながら、現在の事業所がある高知県トラック団地をリサイクルセンターの拠点にしていきたいとのことです。



分別作業で大忙しです!!

「先端リサイクル技術で独自の商品開発」

竹内 進さん 金星製紙(株)営業部次長

日本で最初に乾式不織布を開発した製造メーカーとして知られる金星製紙。その独自の技術をもとに、平成4年、社会問題化していたペットボトルを再生原料とした台所水切りごみ袋を日本で最初に開発しました。共同で研究開発した日本生協共同組合連合会を通じて市場に出したところ、大好評を得えました。現在では、量販店やホームセンターなどでも販売されており、こうした環境関連商品が、売り上げ総額の約20%近くまでになっています。そのほか、この水切り袋の包装資材であるポリ袋を同じ水切り袋で代替することや、運送する段ボールを繰り返し使用できるコンテナで代替することなどゴミの減量化に向けたユニークな取り組みもすすめています。今後とも、環境分野に投資を行いながら、他社にはない新たな商品開発に積極的に取り組んでいくとのことです。



水切りゴミ袋「エコ・ボンリック」

「地域とつながり、地域に愛される企業に」

嶋カ健史さん (株)サニーマート環境・CR担当

「食とともに体の健康づくりによる地域貢献」をコンセプトに、1974年にスタートした親子水泳教室は、33年間で卒業生が4万5千人を超えるまでになりました。7月の1ヶ月間、小学校の放課後のプールを利用して、PTA、学校、指導講師、さらには従業員の協力も得た運営体制で実施しています。2006年度は、高知市内27校、南国市内2校の計29校で実施し、参加者は912名でした。ほかにも、小学生を対象とするスポーツ大会や自然体験教室など地域の将来を担う子どもたちの健やかな成長を支援する活動を行っています。今後はこうしたCR（コミュニティ・リレーション）活動を、新入社員をはじめ社員の研修の場とするなど企画・実施段階から多くの従業員の参画を図る仕組みとし、地域とのつながりを一層重視したスタイルに進化させていきたいとのことです。



親子水泳教室

○「第18回企業市民セミナー」 2007年2月21日(水) 13:30~16:30

(株)四国銀行本店西別館5F研修室

「自然と伝統を師に豊かな食文化を創造」

浜田幸彦さん (株)浜幸代表取締役会長

浜幸が10年前に開設した障害者の社会参加の場「ゆうあい作業所」は、長年にわたり、2つの障害者作業所に菓子の箱折りなどの作業を発注していたことが契機となっています。浜幸に情報、機会を運んでくれた方がいたから実現したとのこと、「いいことなら、やったらいい」というスタンスではじめて現在に至っています。また、「自然が正しい」「健康が一番」という価値観を原点に、これまで事業を展開してきました。2005年9月に店頭へ送り出した牛乳、卵アレルギーの子どもが安心して食べられるケーキもそうしたものから派生した商品のひとつです。お金だけの豊かさではない、「素晴らしい自然や伝統の残る高知に住んだら気持ちがいい」というバックボーンをもとに、今後も日本の菓子文化のリーディングカンパニーとしての役割を果たしていきたいとのことです。



牛乳、卵アレルギーの子ども向けケーキ「エミーノ」

「ユーザーニーズをもとに技術で社会貢献」

山本吾一さん 兼松エンジニアリング(株)代表取締役会長

兼松エンジニアリングは、独自の空気輸送技術をもとに、環境整備機器のなかでも、汚泥処理に力を入れて研究開発、製品化を図ってきました。主力商品の強力吸引作業車の国内シェアは70%を獲得。その他にも、汚泥のかさを減容するリサイクル車、水底の汚泥を回収する装置など特殊な廃棄物処理機器の技術開発を行い、提供することで、公害防止や資源のリサイクルなどに貢献しています。製品は、多様化するユーザーニーズに対応するため、一台一台が仕様も性能も違う手づくりとなっており、そのため、高い技術力に裏づけされた多品種少量の生産体制を構築しています。今後とも、企業のブレンである社員を大切に、自由な発想で思い切った仕事をしてもらうことで、土佐にありながらも土佐にない企業を目指していきたいとのことです。



強力吸引作業車

池川木材工業は、四国の山のなかで、地域資源の木にこだわり、その本来の活用を考えた独自のものづくりに取り組んでいます。それは、自社の山林から産出した木材を、自社の工場で製材・加工して最終商品にする一貫生産体制を指向した事業展開であり、2000年6月には、国内では2番目に「COC（流通・加工管理）認証」を受けています。その一環として、多額の資金を投じて設置したバイオマス乾燥施設により、生産工程から発生する皮や木屑などの産業廃棄物を木材乾燥の熱源として有効活用し、化石燃料を一切使わない企業努力をしています。森林を守りながら、木材商品にして販売する、それで得たお金はまた森林を守る資金に少しでも還していくというコンセプトのもと、これからも“小さくてもピカッと光る企業”の確立を目指しています。



間伐材を余すことなく活用する独自の工法で作られたログハウス

「社会貢献」は利益につながる!?

NPOでいう「非営利活動」、企業でいう「社会貢献活動」で利益をあげるのをおかしいという意見もまだまだ聞かれます。では、こういった「非営利」や「社会貢献」の部分での活動や事業で本当に利益をあげてはいけなんでしょうか。答えは「否」だと思います。

NPOの場合、活動から利益が発生しても、それを構成員で分配せず、全額を次年度以降の活動に投資することが求められている組織ですので、特に問題はありません。

企業の場合、もともとが「利益追求を目的」とした組織ですので、活動や事業で利益をあげることの適否を論ずるのは的外れかもしれません。経営上の利益というインセンティブ（動機付け）が働き、企業の専門性や資源を活かして社会や地域の課題に直接関わる企業が増えていくことは、社会全体をよりよいものにしていくという意味では大きな意義があります。

利益が得られるからこそ、NPOであっても企業であっても、持続的、発展的に活動や事業を展開することができるのです。

今回のセミナーで発表いただいた企業では、「リサイクル」、「健やかな子どもの育ち」、「豊かな食文化の創造」、「森林の保全」などその社会的な意義を本業のなかにきちんと見出し、長年にわたり地道に、そして戦略的に事業展開をされていました。それぞれの発表者の皆さんの言葉をお借りすると、「志」「心意気」「こだわり」をしっかり持ち、時代の先を見据えながら、それぞれの分野でナンバーワン、オンリーワンの企業を目指す姿がそこにありました。共通するのは、「自分たちの会社を発展させたい」ということと併せ「自分たちの高知を元気にしたい」という熱き思いだったように思います。セミナーのまとめとして、高知大学の山上健作教授からも「これからの時代はますます、社会性を重視して経営をすすめている企業は、従業員、顧客、地域コミュニティなど社会から支持され、経営上のメリットを享受するようになってくると思います。」のコメントをいただきました。

企業・NPO資源循環システムの運用報告

企業の持つ物品等の資源をNPOの活動に役立てるための仲介を行う、「企業・NPO資源循環システム」の運用を行っています。2006年度は、7社から提供いただいた物品305点を28団体にお渡ししました。

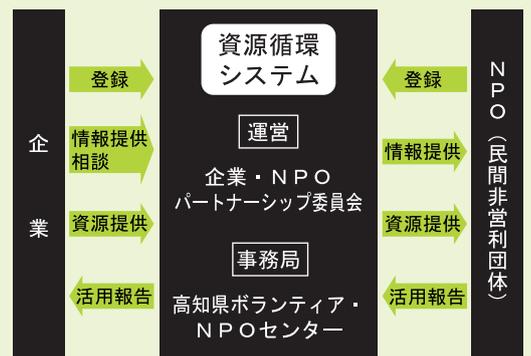
「備品の入れ替えで、まだ使える机やイス、OA機器などが不要になった」「店内の催事場を地域の団体のために役立てたい」など、企業の資源を地域社会のために有効に活かしたいときは、是非ともご連絡ください。



物品の保管場所は(株)太陽が提供

「企業・NPO資源循環システム」とは

企業もつ資源をNPOに橋渡しすることで、企業の社会貢献活動とNPOの運営を支援していく仕組みです。仲介するのは、「物品」、「場所」、「資金」、「人材」です。



〔運用実績〕

提供企業等	引渡し年月	提供資源	提供先NPO
(株)NTTドコモ 四国高知支店	2006年6月	接客用イス <u>8点</u> ※備品の入れ替え	ワークスみらい高知、訪問理美容ネットワーク ゆうゆう <u>計2団体</u>
高知カシオ(株)	2006年7月、 8月	テーブル、電子レンジ、テレビ、掃除機、炊飯器、食器棚、全自動洗濯機、クローゼット、冷蔵庫、電話、蛍光灯その他 <u>計45点</u> ※備品の入れ替え	ハート・リンクコミュニティ、高知市身体障害者連合会、身体障害者通所作業所せんだん、高知日仏協会、たびびといきいきみはら会、共同作業所ゆら・ら、サポートぴあ、野いちごの場所、高知いのちの電話協会 <u>計10団体</u>
(株)四国銀行	2006年7月、 9月、11月	折りたたみ机51点、パイプイス183点 <u>計234点</u> ※備品の入れ替え	大地の会、たびびと、あさざり作業所、サポートぴあ、野いちごの場所、高知いのちの電話協会、高知県介護の会、ワークスみらい高知 <u>計8団体</u>
(株)相愛	2006年7月	パソコン(デスクトップ型) <u>2点</u> ※備品の入れ替え	明日への絆、自立を支援する親たちの会 <u>計2団体</u>
高知県地域労使 就職支援機構	2006年9月	FAX付きコピー機 <u>1点</u> ※備品の入れ替え	高知県難病団体連絡協議会 <u>1団体</u>
(株)ユーマート	2006年9月	キャビネット、事務机、応接セット <u>計14点</u> ※備品の整理	サポートぴあ、高知いのちの電話協会、みどりの手、訪問理美容ネットワークゆうゆう <u>計4団体</u>
貨物サービス(株)	2007年2月	テレビ <u>1点</u> ※備品の入れ替え	大地の会 <u>1団体</u>
総計 7社		305点	28団体

※その他企業からの支援・協力

- ・(株)太陽…提供物品の保管用倉庫の提供【通年】
- ・(株)高知電子計算センター…提供物品(パソコン)の無償データ処理【2006年7月分】

..... 企業・NPOパートナーシップ委員会参加企業・団体 (2006年3月現在)

イオン高知ショッピングセンター、(株)NTTドコモ四国高知支店、(株)高知銀行、(株)高知スタンダード石油、(株)高知放送、(株)四国銀行、住友生命保険相互会社高知支社、(株)相愛、(株)土佐ガス、高知県経営者協会、特定非営利活動法人高知NPO、特定非営利活動法人ごめん・なはり線を支援する会、特定非営利活動法人自立サポートセンターあきらめないで、高知大学人文学部、高知県健康福祉部保健福祉課、社会福祉法人高知県社会福祉協議会／高知県ボランティア・NPOセンター、特定非営利活動法人NPO高知市民会議

企業・NPOパートナーシップ委員会事務局

〒780-8567 高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ4F
社会福祉法人高知県社会福祉協議会／高知県ボランティア・NPOセンター内
TEL 088-850-9100 FAX 088-844-3852 Eメール kvnc@pippikochi.or.jp

